

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
北条鉄道	<p>粟生駅から北条駅まで、13.6kmを約22分で結ぶ北条鉄道は、旧国鉄北条線の廃止後に誕生した、第三セクター方式による市民の足である。駅数は8つのミニ路線であるが、沿線には西国札所の法華山一乗寺や古法華自然公園をはじめ、酒見寺、住吉神社、北条の五百羅漢などの見どころも多く、観光路線としても親しまれている。</p> <p>のどかな田園風景や山々の緑を背にして走る一両編成のレールバスは被写体としても人気がある。「ローカル線ならではのゆったりとした時間」「窓の外を流れるように広がる田園風景」「心地のよいエンジン音と振動」「かつてのにぎわいの面影を残しながらたたく無人の駅舎風景」なども魅力で、単なる移動手段というだけでなく、そこで味わう贅沢な時間も魅力の鉄道である。</p> <p>(出典：ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター発行)、加西市観光まちづくり協会HP)</p>		●	●		加西市	私の好きな兵庫の風景100選(兵庫県)	●
コハクチョウ	<p>加西市は、国内最南端のコハクチョウ越冬地の一つであり、毎年11月末になると、約4,000kmにも渡る長旅を終えたコハクチョウの群れが飛来し、翌年3月頃まで観察できる。コハクチョウが初めて飛来したのは1980年ごろであり、当時は数羽だったが、毎年少しずつ増え、近頃は50羽以上の群れが飛来する。加西市内では、伝通池、中池、三田池、山下新池、長倉池、水正池などで観察することができる。</p> <p>水辺を優雅に舞う姿と水草をついばむ灰色の幼鳥の愛らしい姿は、この地域の冬季を象徴する景観であり、地元住民や愛鳥家をはじめ多くの人々に親しまれている。</p> <p>(出典：加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)</p>	●				加西市		●
法華山谷川	<p>法華山谷川は、法華山の山頂近くから少し下がった谷間に流れる。覆う落ち葉を縫って、かすかな水の流れがやがて大きさを増し、せせらぎの音がし始める。源流から下ると一条寺の伽藍が山中へ広がる。川は門前を清めるように南に流れる。</p> <p>(出典：ふるさとの川紀行(神戸新聞総合出版センター発行))</p>	●				加西市		
北条町 節句祭	<p>節句祭は、住吉神社・大歳神社において、4月の第一日曜日及び前日に行われる。</p> <p>兵庫県の無形民俗文化財に指定されている竜王舞は、屋宮に大歳神社と住吉神社の双方で同じように舞われる。毛槍を×字型に立てかけて矢来にし、観衆を制止して舞台をつくる。</p> <p>(出典：ひょうごの民俗芸能(神戸新聞総合出版センター))</p>				●	加西市北条町北条		○
北条住吉神社	<p>住吉神社の本殿は切妻造、妻入の独特な形式で、著名な摂津の住吉大社の形式に類似している。住吉大社の形式は住吉造というが、北条住吉神社の形態は、その変形であるといわれ、古代にこのあたりが摂津住吉社の神領であったこと関係があると思われる。本殿は神社本殿の中では巨大なもので、それが三棟も並立していることも特徴である。建立は嘉永5年(1852)。</p> <p>住吉神社で桜の季節の訪れとともに始まる「北条節句まつり」は優美さと勇壮さが織りなす華やかな春の祭りとして有名で、播磨三大まつりの一つに数えられ、長い伝統を引き継いでいる。東西の神輿、14台の豪華な屋台が、街中での巡行と勇壮な宮入を行い、古式ゆかしい鶏合せ神事、龍王の舞などが奉納され、祭りは終日大観衆でにぎわう。</p> <p>兵庫県の無形民俗文化財に指定されている竜王舞は、屋宮に大歳神社と住吉神社の双方で同じように舞われる。毛槍を×字型に立てかけて矢来にし、観衆を制止して舞台をつくる。</p> <p>このように、北条住吉神社とそこで繰り広げられる祭りや舞は北播磨を代表する歴史的文化的景観である。</p> <p>(出典：ひょうごの民俗芸能(神戸新聞総合出版センター発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)</p>				●	加西市北条町北条1318		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
酒見寺	酒見寺は、天平17年(745)に行基がこの地を訪れ、酒見明神の神託により伽藍を建立したことに始まると伝える古刹である。境内には、山門や引声堂、地藏堂、多宝塔、新観音堂、本堂、鐘楼などが立ち並んでいる。多宝塔は、寛文2年(1662)に建てられ、塔内に大日如来を安置している。また、屋根の上重が椀皮葺、下重が瓦葺という珍しい様式で、全体に装飾文様を極彩色で描いており、全国でもっとも美しい多宝塔と云われている。これらの美しい建造物が地域のランドマークを形成している。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)				●	加西市北条町 北条1319		●
羅漢寺、五百羅漢	加西市から高砂市にかけての一带は、古来、良質の石の産地であり、多くの石造遺跡や遺物が残されている。特に有名なのが400体以上もの石像が境内に寄り添うように佇む羅漢寺の石仏群である。「北条の五百羅漢」の名で広く知られる石仏は、釈迦に追従した五百人の聖者を称して五百羅漢と言われる。石仏の大半は石柱を削り出したような素朴な造りの立像で、地藏尊を思わせる穏やかな顔をしている。地元では古くから「親が見たけりや北条の西の五百羅漢の堂へござれ」と謡われ、多くの人々に親しまれてきた。いつ頃に誰が、何のために造立したかについては諸説があるが、室町末期に小谷城主赤松氏が戦死者の供養のために建立したとも、羅漢寺の南に隣接する住吉神社(酒見社)の神職一族の墓所とも言われる。 お盆に営まれる千灯供養はまさに幻想的である。千灯会(せんとうえ)は、石仏の供養のため、本尊である薬師如来の縁日に併せ、8月8日の夕べより開かれる。参詣者により灯された約1千ものろうそくのやさしい炎が幽玄の世界を醸し出す。 (出典:ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター発行)、兵庫百景 I (神戸新聞総合出版センター発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)				● ●	加西市北条町 北条1293	私の好きな兵庫の風景100選(兵庫県)	●
女鹿山古墳群	女鹿山古墳群は、22基の中期古墳群である。女鹿山6号墳、21号墳ともに墳丘の大半が破壊され芳しい保存状態ではないが、国内で生産がはじまったばかりの須恵器(初期須恵器)が出土した古墳として特筆できる。このようなことから、有力な豪族の古墳であるといえる。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市西上野 字女鹿山		○
鹿咋山(女鹿山)	鹿咋山(かくいやま)は、『播磨国風土記』の中修布里の記述に出てくる。応神天皇が修布里に狩りにやってくる。すると山中で舌を噛んだ白鹿と遭遇したので、この山を鹿咋山と呼ぶ。これと同じような伝承が「宍(しさね)郡条」にもある。伊和大神が国づくりを終え国境を定めるため巡幸していると、舌を出した大きな鹿と遭遇するというものである。鹿咋山は女鹿山(めがやま)(北条町黒駒・女鹿山自治区・西上野町)に該当すると考えられている。 このように、鹿咋山周辺は播磨風土記の時代の景観を彷彿とさせる景観を現在も引き継いでいる。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市西上野 町、北条町黒駒		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
石部神社	<p>石部神社の石段両側には、市指定文化財である2本の杉がそびえ立つ。石部神社鎮座の直後に手植えされたといわれており、2本とも根回り約5m、高さ約30mの大木である。杉をくぐると本殿が現れる。背後の三津山山頂には皇塚古墳がある。墳丘径16m、高さ2mの円墳で、古墳時代前期の自然の丘陵地を利用して造られた古墳であると推定されている。元正天皇の皇女を葬ったといわれており、鏡や刀剣、土師器、玉などが出土している。</p> <p>石部神社の秋祭りは、毎年10月第二日曜日に行われる。境内では加西市の伝統芸能の一つである石部太鼓が披露され、2基の神輿と11基のこども神輿が練り出す。稲穂が金色に実り垂れ下がる頃、のどかな田園が広がる中を神輿が練り出し、威勢のよい声が響きわたる伝統的な景観が受け継がれている。</p> <p>(出典：加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)</p>	●				加西市上野町		●
多聞寺	<p>多聞寺は、黒田官兵衛、豊臣秀頼に仕え、安土桃山時代から江戸時代初期に活躍した武将、後藤又兵衛との関係が非常に深い。大坂夏の陣、河内道明寺の戦いにおいて又兵衛が討ち死にし、翌年の元和2年(1616)に、又兵衛の三男佐太郎(太郎正方)が父と兄を弔うために、多聞寺を建立した。又兵衛の菩提寺である多聞寺は、現在も又兵衛の真牌(位牌)を本堂に奉安しており、歴史を感じさせる景観資源である。</p> <p>(出典：加西市HP)</p>				●	加西市尾崎町288		
鴨坂(古坂)	<p>鴨坂は現在の加西市北条町の古坂を指すといわれている。風土記に登場する古代の坂は、いわゆる勾配のある坂道を指すとともに、山の峠を意味する言葉であった。今は舗装された県道や高速道路が通っているが、昔は追いはぎが出るような恐ろしい峠道だったという。その東脇の小高い丘に登ると、今も村の人々に細々と信仰されている金刀比羅宮の祠が立っている。前面には北条町全体が見晴らせるほどの風景が広がっている。</p> <p>(出典：風土記からみる古代の播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2007.3.20))</p>				●	加西市北条町		
小谷城跡	<p>小谷城跡は、室町時代に築造され、小谷赤松氏の居城となった山城跡である。赤松氏は、現在の北条地区に「古市場」を開いたことから、「田舎なれども北条は都、月に六斎(回)市が立つ」と謳われたように、その後市場町として発展した。城は天文11年(1542)に尼子氏との戦いで落城したといわれている。</p> <p>陽松禅寺背後の山頂、東端に一の曲輪があり、西へ数段の曲輪がのびている。他にも空堀や土塁、堅堀や堀切などの遺構が確認できる。また、眼下には、赤松氏が治めた北条の町並みを見渡すことができ、歴史的背景を感じさせる景観を呈している。</p> <p>(出典：加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)</p>	●			●	加西市北条町小谷		●
ジャマ古墳	<p>ジャマ古墳は、直径約53mの中期円墳である。玉丘古墳群の一角をなす古墳ではあるが、少し離れた所に築造されている。古墳群の分布の広さを感じさせる。</p> <p>(出典：古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))</p>				●	加西市北条町		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
北条の宿(しゅく)	北条の宿(ほうじょうのしゅく)は、1200年以上前に建立された住吉神社、酒見寺(さがみじ)の門前町として栄えてきた。戦国時代に小谷城主であった赤松氏が「古市場」を開いたことから、『田舎なれども北条は都、月に六斎(回)市が立つ』と謳われるほどに繁栄し、江戸時代には京都と出雲を結ぶ東西の街道に南北の街道が集まる交通の要衝にある宿場町として栄えた。 現在でも、住吉神社や酒見寺の周辺の門前町、そして旧街道沿いには当時の繁栄をもとに多くの商家が贅を競って趣向を凝らした家屋やその面影(卯建、虫籠窓、鏝絵、出桁造り等)を随所に見ることができ、散策の道として楽しめる。平成24年(2012)4月に景観条例に基づいて歴史的景観形成地区に指定されている。 (出典:兵庫県HP、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)			●		加西市北条町	私の好きな兵庫のまちなみ100選(兵庫県)	●
高井家住宅	高井家住宅(国登録有形文化財)は、江戸時代の伝統的な外観を残す町家である。この住宅は、周辺地域のなかでも端正で風格のある外観を留め、繁栄期の商家の佇まいを今に伝える貴重な建物である。景観形成重要建造物に指定されている。 (出典:兵庫県HP)			●		加西市北条町 横尾127		○
水田家住宅	水田家住宅(国登録有形文化財)は、横尾歴史街道「町かど亭」の名称で平成26年(2014)7月よりカフェ兼旅館としてオープン。山陽、山陰地方を結ぶ旧街道に面した建物で、手入れの行き届いた庭に囲まれた部屋でゆっくり流れる時間を楽しむことができる。このように、北条の宿の町並みは、地域の歴史文化にふれることができる景観を今も継承している。 (出典:加西市HP)			●		加西市北条町 横尾121		○
丸山総合公園	山頂から林間を爽快に滑り降りる2本のローラー滑り台(197m、155m)やアスレチックがあり、ふもとには水際のプロムナードを楽しめる親水空間や展望テラスのある管理棟などが整備されている。春には約800本の桜が咲き誇り、中央広場からは、360°桜に囲まれてお花見も楽しめる。ギネスブックに認定された世界一大きな地球儀時計(直径5m、総重量14t)があるなど地域の新しい景観をつくりだしている。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●		●		加西市北条町 西高室591-15		●
高室役者の菩提塔(西福寺)	東高室は、かつての高室石の産地である。また江戸時代より昭和初期まで全国に名の知られた役者の村であった。「石屋三分に百姓一分、後の六分は皆役者」と俗謡にうたわれている。西国はもちろん、北海道にまで巡業に出たという。西福寺には高室役者の座元の名を刻んだ多くの石碑があり、その面影を今に残している。 (出典:兵庫歴史散歩(歴史散歩刊行会発行))				●	加西市北条町 東高室222-1		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
「雲潤の里」と八王子神社	<p>播磨国風土記に記述されている「雲潤(うるみ)里」の名は、飽きたという意味の「倦んだ」からきているとされている。播磨国風土記では、あるとき丹津日子(につひこ)神が川の流れを雲潤の方へ別けようと、雲潤の太水(おおみず)の神に持ちかけたところ、鹿や猪の血で耕作するので川の水は不要と、太水神は断る。これを聞いた丹津日子神が「川を掘るのに倦んでこう言っているだけだ」と述べる。この「倦み」が「雲弥」となって、転じて雲潤になったという伝承がある。この雲潤が現在の地区名の「宇仁」へつながっていると考えられている。</p> <p>宇仁地区の八王子神社は、宇仁小学校の北側にある。長暦元年(1037)に今の滋賀県日吉大社より、八王子大神を勧請して祀り、五穀豊穡、安産守護の神として崇敬されている。ひっそりとした参道を抜け、長い石畳の階段を上がると、眼前に大きな神社の姿が現れる。また裏山には鏡山古墳群が発見されている。</p> <p>このように、八王子神社周辺は田園地域のなかにあって豊かな社寺林を現在まで引き継いでいる。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)</p>				●	加西市田谷町1265		●
鏡山古墳群	八王子神社の裏山には鏡山古墳群が発見されている。				●	加西市田谷町、油谷町 他		○
後藤山古墳	<p>後藤山古墳は、加西南部の倉谷町を見下ろす後藤山(標高130m)の中腹に位置する。古墳時代に築造されたであろう横穴式の古墳で、下段が一辺19mの方墳と推定される。前から見ると墳丘は雛壇を三段ほど重ねた塔のような造り方をしている。玄室の長さは約4m、幅が約3m近い規模は、7世紀後半にあっては傑出したものであり、その墳丘の大きさとともに特別な被葬者を考えることができる。古墳の前には珍しい形をした全長約1.7mの石棺の蓋がある。縄掛け突起を持たない家形で、屋根が独特であり、古代の歴史を感じさせる景観を呈している。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)</p>	●				加西市倉谷町字芋畦122		●
法華山一乗寺	<p>法華山一乗寺は、孝徳天皇の病を祈り、厚い信を得たという天竺(インド)の高僧法道仙人が白雉元年(650)に開いたと伝えられている。西国第26番札所、観音信仰の霊場としても広く知られている。スギ、ヒノキの大木に覆われた小高い山の頂上に向けて、162段の石段が伸びる。うっそうとした木立に護られた境内には、平安末期に建立された国宝の三重塔をはじめ、本堂や護法堂、妙見堂、弁天堂などいずれも国の重要文化財に指定された仏教建築が存在する。三重塔は平安時代末期、承安元年(1171)の建立とされており、日本を代表する古塔の一つ。屋根は、上に行くほど小さくなるように造られており、安定感のある優美な塔である。その他、石造宝塔、奥の院開山堂などの文化財が多く存在する。古風で優美な三重塔や懸造(舞台造)の本堂など、境内の緑と諸堂伽藍が見事に調和している。</p> <p>御詠歌に「春は花 夏は橘 秋は菊 いつも妙なる法の華山」とある通り、春、秋の時節には桜、紅葉の名所としても知られており、特に境内が紅葉で彩られると山間の古寺は観光客で賑わう。 (出典:ひょうご風景100選(神戸新聞総合出版センター発行)、ひょうご風景100選 風と歩く(朝日新聞神戸支局発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)</p>				●	加西市坂本町821-17	私の好きな兵庫の風景100選(兵庫県) ひょうごの森百選(兵庫県) ひょうごの森林浴場50選(兵庫県) 風と歩く「ひょうご風景100選」(朝日新聞)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
浅見家庭園	浅見家庭園は、大阪の庭師によって作庭されたといわれる。その後、大正時代に前庭にも池を穿って改修された。山紫水明な地に、背後の山並みを借景にして、堀際に軽い築山を設け、その前面に心字池風の池泉を穿ち、中央に滝石組を組んでいる。主庭は本屋より北西部にあり、離れ座敷の南庭と、本屋座敷の間の中庭で構成されている。離れ座敷は畑地になっているが、庭園鑑賞は主屋座敷と離れ座敷である客間からの景観を重要視した池泉鑑賞式庭園である。 (出典：兵庫県の日本庭園(神戸新聞総合出版センター発行))	●				加西市坂本町		
善防山城趾	善防山城趾は、善防山頂にある山城趾である。中世に赤松氏が築いた居城で、嘉吉元年(1441)に起きた嘉吉の乱により落城した。落城当時の城主は赤松則繁と伝えられている。合戦は凄まじく、明治初期まで白骨体が木の葉の下に眠っていたといわれ、現在も善防山を見渡せる鶉野の一角に戦死者を祀る「塚まち」がひっそりとたたずんでいる。 善防山頂の一の曲輪(くわ)を中心に、東、西、北へ曲輪跡と思われる段平地が伸びており、わずかに石垣や堀切などの遺構を見ることができる。往時の山城の姿を想像させる景観が残されている。 (出典：北条鉄道沿線散策マップ(加西市観光まちづくり協会発行))	●			●	加西市三口町		●
長石採石場	長石採石場で採掘される長石は、加工に適した凝灰岩であり、古墳時代から採掘が行われてきた。古墳の石棺や石仏、五輪塔など多くの石造品が作られ、高砂の竜山石、加西市の高室石等とともに播磨地方に花開いた石造文化を生み出した。今も主に建設資材用として採石が続いている。 北条鉄道沿線から西を眺めると、善防池越しに白い断崖がそそり立ち、地域の文化を築いた特異な景観が作り出されている。 (出典：北条鉄道沿線散策マップ(加西市観光まちづくり協会発行))	●			●	加西市西長町		●
播磨下里駅	播磨下里駅は田園の中の無人駅であり、大正4年に建設された歴史ある木造駅舎を有している。この駅では平成19年(2007)から僧侶のボランティア駅長が、月に3日出勤し「下里庵」が開扉されている。駅舎内には仏壇が設置され、人生相談やお経の勉強会、また鉄道ファン集いの場として地域住民に活用されている。 平成25年(2013)11月、歴史的景観に寄与しているものとして、国登録有形文化財となった。駅舎では県内で初めてのこと。鉄道サポーターが、ゴミ拾いやトイレ掃除、花の植栽などを行っている。 平成24年(2012)8月、地方企業の無償労働奉仕と浄財寄付によって最新式の多目的トイレと駅前駐車場が整備された。また、重さ40t以上もの原石を整列した石庭が完成。古法華自然公園、長の石山への最寄駅としてハイキング客が多く利用するなど、地域のコミュニティの中心景観を形づくっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)				●	加西市王子町 野中	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
北条鉄道 法華口駅	北条鉄道法華口駅は、大正4年建築の歴史ある木造駅舎である。平成24年には地元企業の無償労働奉仕・浄財寄付によって最新式の多目的トイレ、完全舗装の駐車場が完成した。さらに、ホーム反対側の敷地に1000本以上の樹木が植えられている。また、平成24年11月には、駅舎内に米粉と地元食材を使ったこだわりのパン工房がオープンしている。 法華山一乗寺の玄関口でもあり、鶉野飛行場跡への最寄駅でもあるため、多くの観光客に利用されている。春には桜、秋にはもみじと季節感あふれるホームには、その風景を目当てに地元の方のみならず遠方からたくさんカメラマンが訪れる。 (出典：加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市東笠原町		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
皿池	皿池には見事な眼鏡橋が弁天島まで架かり、島には水神が祭られている。トライアスロンのスイム会場になっており、大会当日は選手たちの熱気あふれる競技風景が見られる。 (出典：播磨のため池(神戸新聞総合出版センター))	●				加西市戸田井町・西長町・東剣坂町・岸呂町		
石櫃戸古墳	石櫃戸古墳は方墳とされるが、一辺20mとも10mともいわれており、改変が激しいため確定していない。重要なのは本墳の横穴式石室である。平滑に仕上げられた切石加工の石材で石室を構築しており、播磨では類例を見ない石室である。 (出典：古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市西横田町		
剣坂古墳	剣坂古墳には、腰石の技法が認められ、小石材の小口積みが顕著である。しかも板石で屍床を構えているように見えるため、九州系の石室とみなすことができる。おそらく播磨最古の横穴式石室の1つと考えられる。 (出典：古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市東剣坂町		
長池のブドウ畑	特産づくりに力を入れる加西市で特徴的なブドウ畑で、9～10月にかけては、白い袋をかけたブドウの実の摘み取り作業で活気づく。加西市では、昭和のはじめよりベリーAの栽培を始め、ぶどうの一大産地として栄えてきた。その技術と味が認められ、平成19年には、『地域ブランド(地域団体商標)』として特許庁に兵庫県で初めて認定された。また、兵庫県の認証食品『ひょうご安心ブランド』にも認定されている。地域で取り組んできた果樹栽培が織り成す農業景観が、地域独特の景観を呈している。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)		●		●	加西市東剣坂町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
笠松山	標高は244mであるが、きれいな三角形の男性的な岩山で周囲からよく目立つ。登路である岩尾根の両端はすっきりと切れ落ちて展望も良い。足元はツツジやリュウノウギク、オケラなど低山の草花が飾る。山頂の展望台からは360度の展望で北は笠形山、北西に七種山、雪彦方面が展望できる。天気がよければ明石海峡大橋や淡路島まで見渡すことができる。眼下の播州平野は一面の田園で点在する農業用の池が日にきらめき、のどかな農村風景が広がっている。地域を代表する展望の場として特徴的な景観を呈している。 (出典：ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞総合出版センター発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市東剣坂町字善防北ノ手1345-2	ふるさと兵庫50+8山(神戸新聞)	●
加西アルプス	北条鉄道「播磨下里駅」を下車、徒歩約10分で到達する山々。のどかに広がる加西盆地を前景に、古法華を中心として東西に連なる善防山(251m)から笠松山(244m)へかけて岩山の起伏が見てとれる。ハイキングコースとしても知られ、その魅力は、笠松山の山頂から善防山山頂へと、ゆったりと延びる岩稜である。ところどころに低木が生育しているが、360度のパノラマが広がり、山頂からは、平野部のため池、水田などが一望できる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市東剣坂町字善防北ノ手1345-2	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
つり橋	舗装された道の両側に迫る崖の上に、つり橋がかかっている。橋の上行くと古法華自然公園が一望できる。山肌には磨崖仏の彫刻が見える。古くからの信仰の歴史と全国有数の石棺の産地でもある加西市の石工たちが山肌に仏を刻み込んだものと伝えられている。終点の標高244mの展望台(笠松山)は、晴天なら六甲の山並みや播磨灘も望めるなど、勇壮な景観を楽しめる北播磨を代表する展望の場となっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●				加西市東剣坂町字善防北ノ手1345-2	ひょうごランドスケープ101景(兵庫県)	○

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
古法華自然公園	古法華自然公園は総面積150ha、桜の名所として人気が高く、春は枝垂れ桜をはじめとしてミツバツツジの花、秋はキノコ狩りや山菜採りが楽しめる。 古法華春祭りは、桜の花が美しい4月、国の重要文化財である浮彫三尊仏龕の管理を行っている石仏保存会を中心に盛大に開かれる。儀式は、本尊のご開帳から始まり、中でも数十名の巫女たちによる浦安の舞の美しさは圧巻。その後、保存会や石彫体験者たちにより彫られた石仏の入魂の儀式などが行われる。また大柳ダムは、冬場にはカモやハクチョウなどの渡り鳥が多く飛来することで知られる。その他、炊事場やかまどを備えたキャンプ場は100人収容でき、4～9月まで利用できる。このように、古法華自然公園は四季折々に多様な景観を呈しており、県民に親しまれている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市東剣坂町字善防北ノ手1345-2	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) ひょうごの森百選(兵庫県)	●
大柳ダム	冬場にはカモやハクチョウなどの渡り鳥が多く飛来することで知られる。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●				加西市東剣坂町字善防北ノ手1345-2	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	○
古法華寺	古法華寺の境内には参拝者手作りの石仏が並び、近隣の人々の信仰心の厚さを偲ばせる。崖には足場が組まれ、人の顔が刻まれている。 古法華寺に収蔵されている浮彫三尊仏龕(通称：古法華石仏)は、今をさかのぼること約1300年前の白鳳時代に彫られた石造彫刻。わが国最古級の石仏で国の重要文化財に指定されている。収納庫に所蔵されているが、石仏彫りを指導してくれる石彫アトリエ館に頼めば誰でも拝観できる。 4月の古法華春祭りでは、日本最古の石仏のご開帳や山伏による無病息災、家内安全を祈願した大護摩供養、巫女による神楽の舞などが執り行われ、歴史的な雰囲気を感じられる景観を演出している。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)				●	加西市東剣坂町字善防北ノ手1345-2	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
常行院と石造七重塔	常行院は、用明天皇の時代に聖徳太子が開基したとされ、白雉元年(650)には法道仙人が伽藍を造営したといわれている。現在の本堂は寛文三年(1663)のものである。境内にある石造七重塔は、室町時代中期に建造されたものであり、市の文化財に指定されている。背景となっている裏山には、浦上久松の居城とされる山下城跡がある。 周辺にはのどかな田園風景が広がり、街道の面影を残す道沿いには石仏が佇んでおり、古くから住民に親しまれた景観を今に伝えている。 (出典：加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市山下町1394		●
山下城跡	山下城跡は、16世紀ごろ、戦国時代の武将浦上久松の居城として、標高約100mの山頂に築かれた山城跡である。山の麓には常行院があり、地域住民の散歩の場としても親しまれている。 この旧跡を後世に残そうと、地域住民のボランティアが木々を伐採し、また県の補助金を活用して本丸跡には東屋が設置されている。地域のふれあいの場として活用される城跡からは見晴らしもよく、眼下に形成された集落と田園の広がる風景を楽しむことができる。 (出典：加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市山下町城山		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
糠岡(糠塚山)	『播磨国風土記』の中で、榎原(ならはら)里の糠岡は「大汝命(おおなむちのみこと)が下鴨里で米をつかせると、糠が散り飛んできた場所なので糠岡と呼ぶ」とあるが、糠岡は南網引町の糠塚山が比定されている。この周辺には、古墳群や石棺仏が多く存在し、歴史ハイキングを楽しむことができる。 糠岡周辺は、古墳群が悠久の歴史を語る景観を今に伝えている。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市網引町		●
周遍寺山1号墳	周遍寺山1号墳は、長辺約10mの長方形墳で、葺石が四隅を突出させるように見えることから、山陰地方の四隅突出型墳丘墓との関係が指摘されてきた。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市網引町		○
堀山3号墳	堀山3号墳は、中期方墳で、一辺約9m。二基の石棺が並列していたが、両者ともに白い粘土で側と蓋石上を丁寧に覆っており、粘土を使って密封している事例である。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市網引町		○
状覚山古墳群	状覚山古墳群は、横穴式石室内部に石で囲った石棺を構築している。7世紀の古墳群では木棺を使う人々とは別の埋葬方法を採用した人たちがいたと考えられる。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市網引町		○
上池	わき水が豊富で枯れたことがないという上池は、隣接する下池とともに農民の命綱となってきた。冷たく澄んだ水が、貴重な固有種を守ってきたが、下池ではヌートリアやブラックバスの生息が確認された。それぞれの環境を保つため池は、固有種を守り、育んでいる。特にヒメコウホネは古くて水の澄んだ池にのみ生息し、可憐な花は古来、日本人に親しまれてきた。氷河時代の名残とされる水草もひっそりと生き続け、この池はいつから存在するのだろうかという感慨をかきたてる景観を伝えている。 (出典:播磨のため池(神戸新聞総合出版センター)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市網引町		●
北条鉄道 網引駅の大銀杏	旧網引駅舎は昭和59年(1984)に焼失したが、平成25年(2013)2月、地元企業の無償労働奉仕と浄財寄付により網引駅が完成。駅舎内ではボランティア駅長による「切り絵教室」や「鉄道グッズ」の販売、地域住民との交流を広げる憩いの場として活用されている。同時に駅周辺はサイクリング中間点休憩所として、最新式多目的トイレ、駐車場、駐輪場、花壇が整備され、多くの方々に利用されている。駅待合室には駅長が撮影した列車の写真や作品が展示されている。駅舎と大銀杏の木があいまって、故郷として帰ってきたくなるような懐かしい景観を再生している。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市網引町		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
あびき湿原	あびき湿原は、加西市の重要な生態系に選ばれる県内でも非常に規模の大きな湧水湿原である。多くの絶滅危惧種の動植物が生息しており、貴重な自然を守るため手造りの木道が設置されている。 この豊かな自然を子どもたちに伝えていくため、周辺住民が中心となり「あびき湿原保存会」が発足した。湿原保全や希少動植物保護を目的に、冬場は湿原内の枝木の伐採や散策道の整備、春夏はボランティアガイドとして湿原の魅力を伝える活動を行っている。 7月には、湿原が水を含み、ハッチョウトンボやサギソウなどの貴重な動植物の観察ができる。 糠塚山とともに、環境省の生物多様性保全上重要な里地里山に選定されるなど、自然豊かな美しい景観が保全されている。 (出典:加西市HP、広報かさい(2015.8月号、10月号)、かさい教育ねっと(No.25))	●				加西市網引町		●
八幡神社(獅子舞)	八幡神社は、加西郡史によると、勧請は永正2年(1505)といわれ、由緒から飾東郡松原村(姫路市白浜町)鎮座の神を分霊したものと思われる。10月には網引町の秋祭りが行われ、八幡神社境内では獅子舞が奉納される。獅子舞は、明治20年(1887)に小野市来住町から伝わったもので、加西市の民俗文化財に指定されている。伝承されている舞は13演目あるが、中でも「谷渡り」は6mの梯子を山形に組み、その段上での舞いであり大変迫力がある。このように八幡神社は県下でも貴重な祭礼の景観を継承している。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)				●	加西市網引町 842		●
三宅家庭園	三宅家は江戸時代より酒造業を営んできた。明治時代に姫路藩筆頭家老である河合道臣の屋敷に建つ書院建築等を買収し、庭園とともに現在地に移したという。庭園は、前庭部と主庭部の二庭に分かれている。前庭は飛石と植栽を中心とした庭園構成である。主庭である書院庭園は池泉庭園である。 (出典:兵庫県の日本庭園(神戸新聞総合出版センター発行))	●				加西市中野町 917		
「川合の里」と乎疑原神社	播磨国風土記に記述されている「川合(かわい)の里」の由来は、「端鹿(はしか)川の尻と鴨川がこの村で会うから」とある。端鹿川とは、端鹿里を流れる川、つまり東条川と考えられる。東条川の尻(最下流)で会う(合流)する鴨川は、賀毛郡を流れる最大の川である加古川と考えられる。川合という地名は、現在小野市に河合地区として残っている。 乎疑原(おぎわら)神社は、学問の神様として知られる菅原道真を祀る神社であり、3月には命日にちなんで天神祭り(三月例大祭)が開かれる。神社には立派な梵鐘があり、その銘文に、「播州賀西郡西河合郷」とある。増位山随願寺(姫路市)にあった梵鐘が、大永6年(1526)にこの神社に寄贈され、その際に追記されたといわれている。 このように、乎疑原神社はその社寺林と共に、里で継承されてきた歴史文化資源と祭りを現在まで引き継いでいる。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)				●	加西市繁昌町 529		●
水正池(コハクチョウ)	ハクチョウが、約4,000kmに渡る長旅を終え、加西市に飛来するが、水正池もハクチョウの越冬地のひとつ。ハクチョウが初めて飛来したのは1980年ごろで、当時は数羽だったが、近頃は30羽以上の群れが飛来する。3月上旬まで、三田池(豊倉町)や水正池(上宮木町)などで観察できる。冬の風物誌として親しまれる景観を呈している。 (出典:広報かさい2015.2月号、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市上宮木町		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
旧海軍鷓野飛行場跡地	鷓野飛行場跡(姫路海軍航空隊鷓野飛行場、川西航空機姫路製作所鷓野工場跡)は、太平洋戦争が悪化しはじめた頃、優秀なパイロットを養成するため、昭和17年(1942)に着工し、昭和18年(1943)に完成した旧日本海軍の飛行場跡である。当時、航空隊には、17歳から25歳までの若者が全国から約320名集められ、ここで30時間の飛行訓練を受けた後、各航空隊へと散っていった。昭和20年(1945)には、練習生による神風特攻隊「白鷺隊」が編成され、終戦までに63名の尊い命が失われた。 今でも飛行場跡地周辺には防空壕跡や機銃座跡など多くの歴史資産が残されている。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)			●	●	加西市鷓野町		●
鷓野中町花家族の会	鷓野中町花家族の会は、地域資源である旧海軍鷓野飛行場跡地の防空壕改修に伴い、周辺の花壇づくりに取り組んでいる。公会堂、公園、沿道、交差点など、1,340㎡の緑地に12,400本の花苗を植栽。平成23年度からはサツマイモづくりや芋掘り大会を通じた地域活性化にも取り組んでいる。 第13回「人間サイズのまちづくり賞」花と緑のまちづくり部門 奨励賞 受賞 第14回「人間サイズのまちづくり賞」花と緑のまちづくり部門 知事賞 受賞 (出典:兵庫県HP)	●				加西市鷓野町		
気球	加西市では、「熱気球全日本学生選手権」を開催するなど、「気球の飛ぶまち かいし」と題して玉丘史跡公園や鷓野飛行場跡地等における気球を活用したイベントの開催に力を入れている。 全国から15の大学熱気球チームが集い、加西の空を飛ぶ姿は壮観な眺めである。また、バルーングローと呼ばれる夜間係留では、暗闇にバーナーの炎で熱気球が照らされ、幻想的な世界を醸し出す。			●		加西市鷓野町		●
上鴨・下鴨の里	鴨里は、播磨国風土記に郡名と同じ名称で由来も郡名と同じとある。また、里の中でも最初に記述されているので、賀毛郡の中心的な里だったとも考えられる。鴨里は当初は一つの里だったが、後に上鴨里・下鴨里の二つの里に分けられたとある。上鴨里・下鴨里は現在の加西市の在田地区、西在田地区と考えられている。 (出典:加西市HP)				●	加西市(在田地区、西在田地区)		
東光寺	白雉2年(651年)法道仙人による開基である万願寺が天文7年(1538年)の兵火により消失し、南の坊のみが再興された寺である。 田遊び・鬼会は、東光寺の本山にあたる比叡山の行事に合わせて、毎年1月8日午後7時頃より始まる。田遊びは五穀豊穡を祈る儀式であり、農作業のしぐさを奉納する。県下ではこの東光寺にだけ伝わっている非常に貴重な儀式である。鬼会は悪霊や災難を追い払うもので、たいまつや矛を手にした鬼が現れ、激しく暴れまわる。室町末期頃には既にあったと思われ、その後中断と再開を繰り返してきた。国指定無形民俗文化財に指定されている。 儀式は、本殿拝殿で「田遊び」から始まり、福太郎・福次郎・田主が、種まきから収穫までのしぐさをして、五穀豊穡を祈る。「田遊び」が終わると、引き続き「鬼追い」の行事となり、赤鬼がたいまつ、青鬼が矛を持って、堂内をあばれ回り、悪霊や災難を追い払う。この福太郎・福次郎、そして赤鬼・青鬼には、厄年の男性が扮することで厄払いになると言われている。ここでの鬼は海のかなたや山奥から祝福のために人里に下りてくる神様のことだと言われている。このように東光寺は県下でも貴重な祭礼の景観を継承している。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)				●	加西市上万願寺町392		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
女切峠	加西の奥、東光寺の近くにあたる上万願寺から上芥田へ越す峠の坂を「おなきり坂」と呼び、坂の頂上には二つの塚が祀られている。この塚に秘められた若い二人の悲しい恋の物語「女切ろまん伝説」の舞台である。 (出典:ハートにぐっと北播磨HP)	●				加西市上万願寺町		○
女切池(おなきりいけ)	加西の奥、東光寺の近くにあたる上万願寺から上芥田へ越す峠の坂を「おなきり坂」と呼び、坂の頂上には二つの塚が祀られている。この塚に秘められた若い二人の悲しい恋の物語「女切ろまん伝説」の舞台である。 「市兵衛」という男が恋人「てる」を追って身投げしたと伝えられ、地元には立つ2人の墓には今も花が供えられる。地元の原始人会は、地域の民話である「女切峠」を劇化し、地域の人々で演じている。 女切池は、万願寺と芥田の集落を隔てる女切峠にあり、池には弁天を祀ったとされる石造物がある。近くの山居池とともに上芥田町の田、約30haを潤している。伝説を今に伝える取組みが進む地域の重要な景観である。 (出典:播磨のため池(神戸新聞総合出版センター発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				加西市上芥田町		●
久学寺	浅野藩三がく寺の一つと称される「久学寺」。赤穂藩浅野家代々主や四十六士の義士位牌が堂にまつられており、12月には恒例の義士祭が行われる。 赤穂城主となった浅野内匠頭長直公は赤穂藩53,000石の領地を見聞され、特に飛地で石高の多い旧加西郡の北部(現加西市)8,920石の領地を熱心に見聞された。そしてその途中、久学寺にて宿泊され、当時の住職に深く帰依され山林田畑12石を寄付され、浅野家の菩提寺として父、長重公と浅野家代々の弔祭を依頼されたと伝える。赤穂義士ゆかりのいわれを今につたえる景観を呈している。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)				●	加西市上芥田町982		●
長浜家庭園	長浜氏は在地主豪として笹倉に居住し、三木別所氏に属したが、三木落城の後は帰農して庄屋を務めた。庭園は庄屋時代の作庭と思われる。庭園は、裏山の斜面を活かして築山とし、細長い池泉を穿った池泉鑑賞式庭園となっている。 (出典:兵庫県の日本庭園(神戸新聞総合出版センター発行))	●				加西市笹倉町178		
亀山古墳	亀山古墳は、玉丘古墳の北東に位置する亀山山頂(標高約161.5m)にあり、南北約50m、東西約45mの大型円墳である。ほとんど盛土を行わず、葺石や段築も省略し、埴輪列と丘の整形だけで古墳が造られている。墳頂部には岩盤を掘り込んで造られた2つの埋葬施設が確認されているほか、眉びさし付きかぶとなどの副葬品が出土し、この地域の首長の墓であると考えられている。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30)、加西市HP)	●				加西市笹倉町		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
いこいの村はりま	いこいの村はりまには、緑いっぱいの芝生広場と茶室を配した庭園があり、散歩道には桜並木、それらを映す水面には水鳥たちが遊び、豊かな自然の中で快適な余暇を過ごすことができる。加西市でも有数のスイセンの名所であり、春先になると公園の東側の畑では、たくさんスイセンが咲き乱れる。またスイセン畑を囲うように桜が植えられており、満開の桜とスイセンの美しい協演が楽しめる。背後の亀山山頂には亀山古墳があり、玉丘古墳群を見下ろしている。また、裏山にそびえたつ高さ約20mのランドマーク展望台は、加西市のキャラクターマーク「根日女」をモチーフにデザインされており、玉丘古墳はもとより、遠く明石海峡大橋までも眺望できる名所となっている。 (出典：ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市笹倉町 823-1	ひょうごランドスケープ100景 (兵庫県)	●
鴨谷	鴨谷の地名は、播磨国風土記の鴨里の伝承に記述がある。応神天皇(品太天皇)が射よと命じた矢に当たった鴨が落ちた場所を鴨谷(かまたに)と呼ぶ。鴨谷の名称は、現在も鴨谷町として残っており、当時の鴨谷がこの周辺地域を指すと考えられている。鴨谷町からは、古代の集落遺跡の鴨谷遺跡が発見されている。 鴨谷町周辺にはため池と田園からなるのどかな風景が広がっており、鴨が飛ぶ姿と相まって播磨国風土記の物語を感じさせる景観を呈している。 (出典：加西市HP)	●			●	加西市鴨谷町 1022		●
殿原の「お葉付きイチヨウ」	荒神山の中腹まで、集落から歩くこと20分。庚申堂(清水寺)境内に立つ「お葉つきイチヨウ」はまっすぐに立つ直幹のイチヨウで、兵庫県の天然記念物に指定されている。樹高33m、根廻り5.9m、目通り幹囲4.0mをはかる推定樹齢300年の大イチヨウである。4m付近から多くの枝を一斉に分枝して樹形を整えている。葉のふちに種子(ギンナン)をつける珍しいもので、これは、二股にわかれた軸の先の胚珠を乗せている部分が伸びだして葉になるために起こるといわれている。清水寺境内では、毎年3月第2日曜日に『庚申祭』が開催されている。地域のランドマークとなる大木である。 (出典：ひょうごの巨樹・巨木100選(社団法人兵庫県林業会議、社団法人兵庫県治山林道協会発行)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市殿原町 1033	ひょうごの巨樹・巨木100選((社)兵庫県林業会議、(社)兵庫県治山林道協会)	●
普光寺の森 河内の里	蓬萊山普光寺は、書写山円教寺や法華山一乗寺と並ぶ「播磨六山」の1つに名を連ねた古刹である。参道を進むと、享保年間に造立された仁王門があり、このあたりから立ち並ぶ石造物は、延々と本堂まで続き、参拝者の目を見張らせる。本堂正面にそびえ立つ高さ7m、重さ22トンの巨大な春日灯籠は、東洋一の大きさとも言われている。 周辺は、モリアオガエルやヒメハルゼミなどの希少な生き物の生息地を巡るハイキングコースも整備されており、加西市内でも特に美しい自然が楽しめる地域である。山アジサイも多く自生する。 播磨国風土記に出てくる河内(こうち)里は、普光寺川上流域の河内町周辺が比定地とされている。河内里に、住吉大神が従神とともにやってくる。大神が村で食事をとろうとすると、従神たちは村人が刈り集めた草を散らし、大神の敷物にしてしまう。この草は苗代を作るために集めたものだったので、困った草主は大神にその旨を訴える。すると大神が「汝の田は草を敷かなくても苗が生育する」と宣言する。これ以降、この村では草を敷かなくても苗代ができるようになったという。播磨風土記ゆかりの景観を今に伝えている。 (出典：加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市河内町 1449	ひょうごの森百選(兵庫県)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
煮坂	煮坂は、播磨国風土記にある鴨里の地名伝承の中に記されている。賀毛郡へ巡行した応神天皇の従者が、修布(すふ)里(現在の加西市吸谷町周辺とされる)で放った一本の矢が、二羽の鴨に当たる。矢を受けた鴨は飛んで逃げ、落ちたところを鴨谷(現在の加西市鴨谷町とされる)という。その鴨を煮物に調理した場所を煮坂といい、現在のニヶ坂(河内町)が該当すると考えられている。 (出典:加西市HP)				●	加西市河内町		
河内城跡	河内城は、室町時代の応永27年(1420)に加西市域を中心に北播磨を支配した赤松一族衆在田氏の居城として築造された。現在も登城道、堀切跡などが残る。 六處神社の西側の山頂に築かれた山城跡に至るルートは、遊歩道として整備されており、神社が登山口となっている。また、周辺の森林は「河内ふれあいの森」として整備され、要所に道標や東屋などが設けられている。 河内城跡の北にそびえる鎌倉山は、古くから神体山として神々の古里と崇敬され、江戸時代からは修験道の中心となった。この行者道を巡るハイキングコースが地元住民の努力により整備され、道中からは河内城と河内町を望むことができる。 播磨国風土記に出てくる河内(こうち)里は、河内城の眼下に広がる河内町周辺が比定地とされており、播磨国風土記ゆかりの景観を今に伝えている。 (出典:加西市HP、広報かさい(2010.9月号))	●			●	加西市河内町西谷		●
日吉神社	日吉神社は、鎌倉山を御神体山として崇めている。天長7年(830)奥宮のある鎌倉山より神様を里に迎え、約1300年前に近江国日吉社(滋賀県大津市日吉大社)より御分霊をいただいたのが、現在の日吉神社であると言われている。 日吉神社の神使は「猿」であり、神猿と書いて「まさる」と呼び、「魔が去る」または「勝る」の意で魔よけ等の神徳があるといわれている。本殿には、「眼猿(みざる)」「口猿(いわざる)」「耳猿(きかざる)」の珍しい彫刻がほどこされている。 日吉神社大祭は毎年10月の体育の日の前日に行われる。周辺地域より6基(以前は7基)の神輿が集まり、巡行する姿は勇壮である。御田植祭は五穀豊穡や子孫繁栄などを祈念し、赤米や紫米などの早苗を田植えして奉納するもので、県下でも稀な伝承行事のひとつ。神田前に作られた拝殿で神事が行われたあと、太鼓の響くなか、緋の着物に菅笠の早乙女姿に扮した親子たちが田植えを行う。春には藤の花が見ごろを迎える。 (出典:加西市観光まちづくり協会HP)				●	加西市池上町7		●
内藤家庭園	内藤家庭園は、宝暦年間頃に、環境整備の一環として作庭されたと考えられている。母屋から見て南面に造られている池泉鑑賞式庭園で、瓢箪型の池を掘って、中心に滝石組を組み、出島を造って自然石の石橋を架け、東部からは石段により築山へと登れるようにし、そこに四阿を造るという構成である。加西市指定文化財名勝に指定されている。 (出典:兵庫県の日本庭園(神戸新聞総合出版センター発行))	●				加西市満久町460		

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
玉丘古墳	玉丘古墳は、全長約109m、前方部幅約54m、後円部径約64mの兵庫県下6番目の規模をもつ古墳時代中期の前方後円墳である。墳丘は3段築成からなる。後円部中央には盗掘穴があり、穴底に凝灰岩製の長持ち形石棺材が残っている。墳丘くびれ部の一方には、造出し部が確認でき、凝灰岩の葺石が残っている。墳丘周囲には、幅約20mの周濠が巡り、外堤には円筒埴輪が樹立していたとされる。出土遺物には、家形・鶏形埴輪のほか多数の円筒埴輪が出土している。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市玉丘町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
玉丘史跡公園(根日女ロマンの郷)	玉丘史跡公園内は、玉丘古墳を中心とする6基の古墳と、移築復元した1基の古墳が点在しており、それらの古墳を取り囲むように芝生広場や湿地観察園、ガイダンス棟、野鳥観察デッキなどが整備されている。周辺には笹塚古墳、クワンス塚古墳等、計9基の古墳があり、古墳時代中期の良好な古墳群を形成している。 播磨国風土記、賀毛郡の条に記載された根日女悲恋伝承の舞台として知られている。古墳時代の恋物語を文献で今に伝える古墳は全国的にも稀で、古代の浪漫が漂う公園は悠久の時を越えて市民に親しまれている。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市玉丘町76		○
クワンス塚古墳	玉丘古墳の南西約100mと近くにあるため、陪塚とみられている。径約35m、造出しを付設する円墳である。造出しには方形区画が設けられ、鶏形埴輪のほか、土製品や籠目土器などが出土し、造出しが祭祀の場であったことをはっきりと物語っている。玉丘古墳とほぼ同時期ないし直後に造られたと考えてよい。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市玉丘町		○
笹塚古墳	玉丘古墳の北西約800mに位置し、古墳群の北西端にあたる。墳丘は二段築成で全長約44m、後円部径38m、前方部長はクビレ部から5.5mに対し、前端幅が18mと推定されている。マンジュウ古墳と同様に、前方部の右側、後円部に造出しが付設される。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市玉丘町		○
マンジュウ古墳	玉丘古墳の北約400mに位置し、二段築成で全長約46m、後円部径40m、前方部長はクビレ部から7.8mに対して前端幅が約26mである。突出する長さが短い、それに対して幅の広い前方部を敷設していることになる。さらに、前方部の右側、後円部に造出しが設けられ、前方部とは明らかに区別すべき施設であることが分かる。 (出典:古墳が語る播磨(神戸新聞総合出版センター発行 2013.11.30))				●	加西市玉丘町		○
長倉池(コハクチョウ)	長倉池は、周辺に農業用水を供給する皿状のため池で、隣接する牧草地、玉丘史跡公園や周囲の山林と一体となり、特に朝方、牧草地から昇る朝日や西の山に夕日が沈む時の景観は他に類を見ないすばらしさである。 加西市は、隣接する小野市とともにコハクチョウの越冬南限の地であり、毎年稲作終了後の池干しが終わり、水が溜まり始めると付近の池で越冬していたコハクチョウが飛来し、北帰行までの集結地となる。また、長倉池は近畿地方におけるミズトラノオの代表的な群生地となっており、池周辺はカスミサンショウオ、ニホンアカガエル、ヒメナエ、ゴマクサなどの貴重な動植物が生息しており、農業高校等の環境研究活動の拠点のひとつとして利用されている。また、ヨシの群生が広がり、晩秋の夕景は絵画のようである。 (出典:播磨のため池(神戸新聞総合出版センター)農林水産省HP、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市玉丘町	ため池百選(農水省)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
ささくら親水公園	亀山古墳や玉丘古墳の周辺に立地する歴史的な環境を有する地域のなかにあり、ため池を利用した公園として整備され、県民、市民に親しまれている。池にはカモやアヒルがみられ、芝生広場は市民の憩いの場となっているほか、釣りも楽しめる。さらに加西市出身の宮史郎にちなみ「女のみち」の歌碑がつくられている。このようにささくら親水公園は地域の身近な自然環境を楽しめる景観資源となっている。(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県))	●				加西市笹倉町	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
玉野町	玉野村の比定地は現在の加西市玉野町とされている。播磨国風土記に記述された玉丘の伝承は、榎原の里内にある「玉野村」の地名由来として、「玉野の村あり、その所以は・・・」の書き出しから始まる。現在、玉野町の広範囲で古代の集落遺跡が確認されており、玉野村が大規模集落だった可能性が高いと考えられている。(出典:加西市HP)				●	加西市玉野町		
山伏峠の石棺仏	松林の峠の山道にひっそりと佇み、行きかう旅人に多くのやすらぎを与えてきた3基の大きな南北朝時代の石仏がある。うち1つは、後期古墳時代の家形石棺の蓋石に阿弥陀坐像を彫ったもので、高さは2.25mもある。県下最大の石棺仏と云われており、家型石棺の蓋石で地上の見えるところでは周りに5つの縄掛け石も確認することができる。中央には印を結んだ阿弥陀如来が彫られており、約700年前の南北朝時代に造られた当時の情景を思い浮かべることができる。(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市玉野町1126-1	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)	●
飯盛山	榎原(ならはら)里は、柞(なら)が生えていたから榎原と呼んだとある。柞はブナやカシの総称で、「ドングリ」のなる種類が多い樹木。地名になるくらいなので、ブナやカシが生い茂る、かなり大きな原生林があったのだろうか。飯盛嵩(いいもりだけ)は、大汝命がこの山で飯を盛ったからとある。飯盛嵩は飯盛山(豊倉町)が比定されている。(出典:加西市HP)	●			●	加西市豊倉町		○
県立フラワーセンター	温室群の前には亀の倉池があり、周囲2kmの池を囲む46haの松の自然林に、近代的な設備の大温室や緑に映えるカラフルな花壇が点在し、四季折々の美しい花が絶え間なく見られる。春先には15万本のチューリップが咲き乱れる。また300種以上ある球根ベゴニアも見もの。「さくら園」、山道を染める「つつじの小道」、全国の木を集めた「ふるさとの森」、「においの森」、「秋の七草園」などがある。一番の魅力は、例年3月から開催される「チューリップまつり」。様々な美しいチューリップを楽しむことができる。また、チューリップの本場オランダ気分が味わえるオランダ衣装体験や日本有数の栽培レベルを誇る食虫植物にも出会える。紅葉の時期になると、北側入り口から事務所に向かう一本道(花と彫刻の道)の両側に植えられたモミジバフウの並木道は、映画やドラマに出てきそうな雰囲気がある。播磨国風土記に登場する飯盛嵩(いいもりだけ)は、大汝命がこの山で飯を盛ったからとされ、飯盛山が比定されている。このように、花と水と緑と歴史の景観を楽しめる公園である。(出典:ひょうごランドスケープ100景(兵庫県)、ひょうご風景100選 風と歩く(朝日新聞神戸支局)、加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●				加西市豊倉町飯森1282-1	ひょうごランドスケープ100景(兵庫県) 風と歩く「ひょうご風景100選」(朝日新聞)	●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
富田まちづくり協議会	富田まちづくり協議会は、県民交流広場事業に取り組むため、平成18年に富田地区内の全世帯を構成員として結成された。年間延べ1,500名以上の地域住民が協議会活動に参加しており、青大豆を使った味噌づくりや三世代交流グラウンドゴルフ大会、神戸市内の住民団体との交流等により地域の活性化に取り組んでいる。 第16回「人間サイズのまちづくり賞」まちづくり活動部門 知事賞 受賞 (出典:兵庫県)				●	加西市(富田地区)		
奥池・新池	奥池・新池は、絵本作家である永田萌さんが「緑色の宝石」に例えるため池である。奥池は総貯水量11,000㎡で4haを潤す。「四季折々の思い出」がある新池は10,000㎡で5haを潤す。いずれも永田作品のイメージの源泉となっている。 (出典:播磨のため池(神戸新聞総合出版センター))	●				加西市坂元町		
修布の里 修布の井	修布(すふ)の里の地名由来は、この地にある井戸に水を汲みに来た女性が、井戸に吸い込まれてしまったためとなっている。その井戸が「すふ井」と呼ばれ、それが里名の修布の里となったとある。吸谷町柏原家にある井戸が「修布の井戸」と呼ばれている。それほど深くはないが水が湧き出て、この土地の水の恵みを感じ取ることができる。現在も、生活に使われている生きた井戸である。 (出典:加西市HP)					加西市吸谷町		○
吸谷廃寺跡	吸谷廃寺は、飛鳥時代に創建されたといわれている古代寺院跡である。その範囲は吸谷町の慈眼寺境内付近と考えられ、塔心礎をはじめとする礎石が多く散在している。これまでに僧坊跡と考えられる掘立柱建物や幡幢を立てるための支柱と考えられる柱穴が発見されている。 周辺には、女鹿山古墳群や村前遺跡などの遺跡が発見されており、吸谷廃寺と密接な関係にある集落跡と考えられる北ノ下遺跡も発見されている。 播磨国風土記に登場する「修布(すふ)の里」の地名の由来となった「修布の井戸」は、吸谷町柏原家にある井戸とされている。現在でも水が湧き出て、この土地の水の恵みを感じ取ることができ、播磨国風土記ゆかりの景観を今に伝えている。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市吸谷町		●
ゆるぎ岩	ゆるぎ岩は、畑町イザナギ山の中腹にあり、昔から「ゆすり岩」ともいわれ神石とされてきた岩である。その昔、法道仙人が「善人が押せば動き、悪人が押してもびくともしない。この岩を押して動かないときは自分に邪心があるから、罪悪を懺悔して正直慈悲の人に立ち返りなさい」と言って心を試させたと伝えられている。岩は二つ並んでいるが、東方の岩が加西市の天然記念物に指定されている「ゆるぎ岩」である。高さ4m、最大周囲6.6mの巨岩であり、上部が尖って中部でふくらみ、下部が細くなった立卵形をしている。下にある岩の上に直立しており、人の力で押すと揺れ動くので、この名がつけられている。伝承を今に伝える景観資源である。 (出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP、ハートにぐっと北播磨HP)	●				加西市畑町字イザナギ山		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観

※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。

北播磨地域 景観資源データベース【加西市】

景観資源の名称	景観資源の内容	ふるさと兵庫を構成する主要な景観※1				所在地	百選等の実績	景観シート※2
		①	②	③	④			
奥山寺	青嶺山奥山寺は、白雉元年(650)法道仙人の開基と伝える寺院である。七堂伽藍の備わった寺院で、境内には均整のとれた美しい姿の多宝塔(県指定文化財)が建つ。裏山には四国八十八か所の石祠(せきし)が並んでおり、毎月21日には弘法大師供養が行われている。春には桜が美しい。また山すその地藏院から本堂へ上る急な石段(145段)の両側には楓の大木が並び、紅葉の季節になると楓の葉が真っ赤に色づき、地藏院の屋根を背景に美しい景観をつくりだす。(出典:加西市HP、加西市観光まちづくり協会HP)	●			●	加西市国正町15		●

※1:①豊かな自然景観 ②自然・緑あふれる農山村景観 ③表情豊かな市街地景観と受け継がれる歴史的景観 ④地域固有の文化的景観
 ※2:●印は景観シート有り。○印は関連する景観シートへの掲載を意味する。